

行政視察等報告書

平成 31年 3月 29日

境港市議会
議長 柗 康弘 様

会派名 公明党
代表者 田口 俊介



下記のとおり行政視察（調査・研修）を行ったので、その結果を報告します。

記

1 視察等期間	平成31年1月20日（日）～1月21日（月）
2 視察等先 及び内容	「議会活性化と議員定数・議員報酬を考えるin東京」 講師： 龍谷大学教授 土山希美枝 氏 研修場所：東京都豊島区池袋駅東 アットビジネスセンター 池袋駅前別館 804号室 主催：(株)地方議会総合研究所
3 視察等議員	足田 法行
4 総 経 費	合計（1名） 78,560円（一人当たり 78,560円） ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
5 所 見 等	別紙のとおり

表 題：「議会活性化と議員定数・議員報酬を考えるin東京」

講師： 龍谷大学教授 土山希美枝 氏

内 容：テーマ1. 「対話と議論」の議会改革
テーマ2. 議員の定数と報酬を考える

【概要】

テーマ1. 「対話と議論」の議会改革

(1) 議会に「対話と議論」はあるか。

…「議会改革の難所」として「議会報告会」「議員間討議」がある。
なぜ難しいところなのか。

議会の多くが政策議会でなく、追認機関となっていて、政策をめぐる議論の基本について理解が出来てない。

- ・政策は、「間違いうる」という前提に立つこと。
- ・そもそも「政策それ自体」で考え、議論すること。
- ・議会を集団として意思決定するという責任を持つこと。である。

(2) 「心が折れる議会報告会」「盛り上がらない議員間討議」という典型に多くが陥っている。

議員報告会の目的は何か、そのための手段は適切か。

議論したい論点か、議論することに意味のあるタイミングになっているか。

(3) 話し合いをデザインする

…「議会報告会（市民との対話の機会）」を実りあるものにするために市民との対話の機会の目的は？

(ア) 主権者である市民への報告

(イ) <政策・制度>の当事者である市民の意識聴取

*特定のテーマについて・不特定の「困りごと」について

(ウ) 議会や議員についての認知や評価を高める（広報）

それぞれの機会の目的・目標を設定して議会として共有する。

- ・市民にとって、その「対話の場」にはどんな意義や魅力があるのか。大前提として、「来た市民に『来てよかった』と思って帰ってもらうこと＝「魅力ある場になっているか」

・「争点×機会」を明確にする

争点＝わがまちの<政策・制度>の課題は、議会・議員と市民が共有できるものにする。

機会＝政策過程／議会の意思決定過程のどの段階か。今日の間が活かされる場にする。

- ・話したい気持ちを惹起する情報提供と、話しやすい場のための設計の

工夫が必要。

… 議員間討議を実態あるものとするために

・自治体議会の議論の経験値 「議論の基本」はどれくらい共有されているか。

・議論の「機会」は意思決定過程のどこにあるか

意思決定のタイミングから遠ければ遠いほど、自由な議論ができる。

・議論の争点をどう拾い上げてくるか。

(4) 可視化と共有のツールを使う

・話し合いをしやすくするための原則—アイスブレイク（初対面の人同士が会おう時、その緊張をときほぐすための手法）とファシリテーション

「発話」を大事にし、受け止める。市民どうしの意見交換も進むように設計する。情報の共有を図る。Yes/Noで聞いてみる。

・発話と成果の「見える化」—ポストイット（付箋を使って、意見を引き出し、効率的・効果的に結論を出す手法）活用、ホワイトボードでのライブ議事録・ファシリテーショングラフィックの活用もある。

（ポストイットの効果）発話者が言いたいことを整理できる。発話したことが形になるので整理しやすい。

・話し合いを「対話」にするための基礎知識とグラドルールの確認も必要。

(5) 議会のファシリテーション

ファシリテーション（の意味：しやすくする）

対話と議論—「聞く力」が重要で、利害と価値観、立場の違う人々を「つなぎ」、理解や共感を「ひきだす」対話が必要。〈つなぐ・ひきだす〉型リーダーシップが求められる。

*話し合いの先進事例に学ぶ

岐阜県御嵩町「議会住民懇談会」

沖縄式地域円卓会議（課題共有円卓会議）

知立市議会「市民と議員の研修会」

総社市議会「市民フォーラム」

テーマ2. 議員の報酬と定数を考える

(1) 議会という仕組みから定数を考える

合議制：シンプルな方程式「一定期間に実りある議論が出来る人数」

代表制：加減の条件としての「その地域の多様性ある意見を必要充分に反映できる人数」

(2) 議員報酬を考える視覚を整理する

- ・「議論による意思集約→決断」はどんな能力が求められ、どれだけ時間が掛かるのか
- ・議員とはどんな職業か
 - ▷非常勤？ボランティア？専門性？市民性？
 - ▷その給与はどう設計されるか

議員の報酬は、生活給にして、議員定数と行政職上位数の平均値と同じにすることが理想である。また、公費で公務員が仕事する環境を整えているように、ある程度議員活動としての環境整備を、政務活動費として認めるべきである。

(3) 「議員」「議会」をどう設定するか

- ・なぜ「政策議会」か
 - ▷課題は無限、資源は有限。
 - ▷政策には必ず複数の選択肢がある。
 - ▷「決断」という契機の重要性 — 「正解」がない中で、自治体としてその権限は最終的には議会にあり、議会が決断する。

(4) 「定数と報酬」と「理解と納得」を考える

- ・市民の「理解と納得」を担保することが定数と報酬の検討の核心である。
 - ▷「見えない努力と成果」に価値は払われない。→ 可視化が必要。「議会として」 <政策・制度>に対して、どれだけ貢献したか。
 - ▷議会の中での成果の共有。
 - ▷活動調査・日報などでの調査、意見集約の可視化。
 - ▷「議論による意思集約→決断」の可視化。 が必要。

(5) 議会と議員の価値はあげられるか

可視化したあと、どう評価を上げていくか。

- ▷成果の共有—議員の成果も、議会の成果としていく。(議会の中で)
- ▷努力<過程>の共有—公開と参加のデザイン
- ▷場、機会の共有—話し合う場の共有を通じた {議会という価値の向上} が必要。

【考察】

テーマ1. の「対話と議論」の議会改革では、議会がわがまちの<政策・制度>の課題を発見し、政策形成の起点となり、アジェンダ設定が来ているか。議会が、わがまちの<政策・制度>の課題を共有し、市民との関係性を構築し、共通の関心事としていけるか。が重要と土山氏が述べていました。議会にとっての「争点」「機会」の重要性を再認識しました。また、本市の議会も、先進事例を研究し、議会が市民にとって「議論する広場」となれるよう一つ一つ実践していくことが大切と思いました。

テーマ2. の議員の報酬と定数を考えるでは、これからさらに財政が厳しくなる中で、議会において〈政策・制度〉の判断が、難しくなり、説明責任が問われてくる。さらに、政策議会また、市民の議会としていくには、いい人材が求められる。議員報酬はあげていかないとよい人材は入ってこない。これが現実である。議員のなり手不足は、最後は報酬の問題に突き当たる。と言われていました。いい人材が進んで、本市議会に入ってもらえるよう、議会の可視化と市民との連携を図っていきたいと思います。

報告者 : 足田 法行